

病虫害防除技術情報第9号

平成 26 年 7 月 24 日
三重県病虫害防除所

ネギのネギハモグリバエ、ネギアザミウマの発生が多くなっています

- 1 対象作物:ネギ
- 2 病虫害名:ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ
- 3 発生状況:多い
 - (1)巡回調査圃場では、6月以降被害発生が増加しており、7月上旬におけるネギハモグリバエによる被害葉率 14.8%(平成 3.5%)、ネギアザミウマによる被害葉率 33.5%(平成 13.6%)と、いずれも平年に比べて多くなっています(表)。
 - (2)一般圃場では、7月中旬の発生量は平年に比べて多い状況です。
 - (3)1か月予報(7月17日・名古屋地方気象台発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想であり、ネギアザミウマ及びネギハモグリバエの発生に好適な条件になると考えられるため、注意が必要です。

表. 巡回調査圃場におけるネギハモグリバエ、ネギアザミウマによる被害葉率

調査年	ネギハモグリバエ		ネギアザミウマ	
	6月上旬	7月上旬	6月上旬	7月上旬
本年	15.5%	14.8%	48.7%	33.5%
平年	3.3%	3.5%	26.6%	13.6%
平年比	多	多	多	多

- ・伊勢市内 4 圃場、各圃場 150 葉(50 株×3 葉)を調査。
- ・平年値は過去 10 年間(平成 16~25 年)の平均。

4 防除上の注意事項

- (1)ネギハモグリバエによる被害は、成虫では一列に並んだ白い点(食害痕および産卵痕)となり、幼虫では葉の内部から食害するため白く細長い線状になります。
- (2)ネギアザミウマによる被害は、成幼虫が葉の表面を食害するためカスリ状に白くなります。多発すると葉全体が白くなり、生育不良となることがあります。
- (3)圃場内や周辺の雑草は発生源となるため、除草に努めましょう。
- (4)いずれの害虫も多発すると防除が困難になるので、早期防除に努めてください。
- (5)薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。